

福祉 ガイドマップ

参加者の声…

本当に必要なのは やさしい心…

蒲郡市では、障害者をはじめ、市民の皆さんすべてに住みよいまちをつくるため、「人にやさしいまちづくり」をこれから進めていきます。福祉ガイドマップづくりの成果は、今後、こういった市が行うまちづく



福祉ガイドマップ
づくりに参加して
蒲郡高校 二年七組
畑田 瑠美さん

(前略) 高校でボランティア部に入部しているのに参加しました。それでも、今までは、障害者の人たちと交流を持ったことがなかったので、障害があっても普通の人と同じなんだということに私自身が、気づいていませんでした。
障害者の人たちにも私たちと同じくらいいろいろな事ができるまちになったらいいなって今回、参加してみたいと思いました。
そのためには、困っている人がいたら助けてあげられるやさしい心を私たちだけでなくすべての人たちが持てたら…。

りに大いに役立たせていただきます。
ところで、どんなに福祉が充実している国でも、まちの中に段差が一つもないわけではありません。
福祉国家として知られるスウェーデンでは、駅のホームに点字ブロックがほとんどありません。そのかわりに、視覚障害の人が白杖をついてホームに来ると、周りの人が椅子まです案内したり、電車まで介助をして

くれるのだそうです。
段差をなくしたり、身障者用のエレベーターやトイレを作ることももちろん大事です。しかし、まちから段差をなくすということ一つとって、何年かかるかわかりません。
大切なことは、人へのやさしい心を持つことであり、これこそが私たちの目指す本当のまちづくりに必要とされているものなのです。

(前略) 私たちも障害者の気持ちになって福祉ガイドマップづくりのための調査をやりました。普段、障害者の人たちを何気なく見ていただけだったけど、実際に体験してみると、想像以上に大変でした。
人込みの中で車イスに乗ると人にあたりそうでもと気をつかいます。トイレに行きたくても車イス用のトイレがない所がほとんどで、大変です。
目の見えない人は、いつも前から何かがせまってくるようで、怖い思いをしているんだなということがわかりました。

福祉ガイドマップ
づくりを体験して
蒲郡中学校 二年五組
伊藤 恭子さん

